

新しい「野洲市民病院」 ニュース Vol.6

令和 8(2026)年 11 月の竣工に向けて
工事の進捗状況などをお知らせします！



令和 7 年 4 月 27 日

＜お問合せ先＞

野洲病院新病院整備課

小篠原 1094 番地

077-587-6141

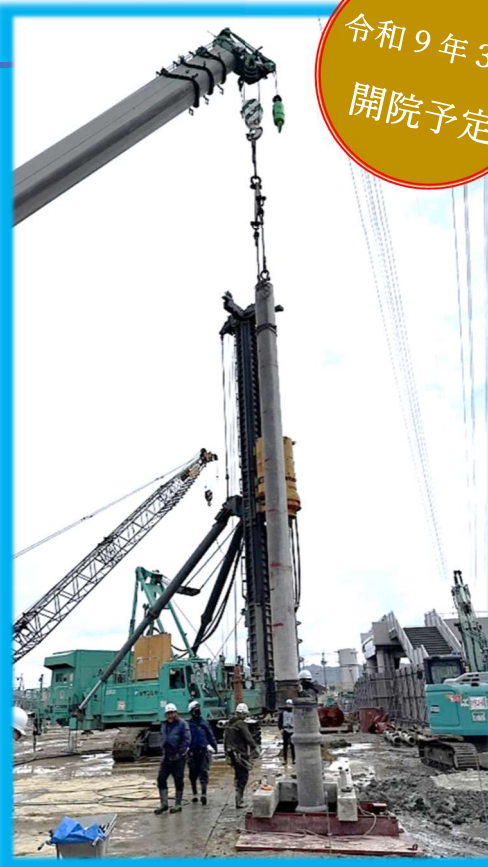
3月から本体工事が始まりました！

◆◆ 基礎工事が始まりました！ ◆◆

3月7日より病院の本体を支える杭を設置する工事が始まり、約1か月半をかけて、合計76本の杭の設置を完了しました。その後、病院の基礎を施工するために土留めを実施し、現在、掘削を行っています。
工事の風景は、市のホームページでもお伝えしています。ぜひ、ご覧ください。



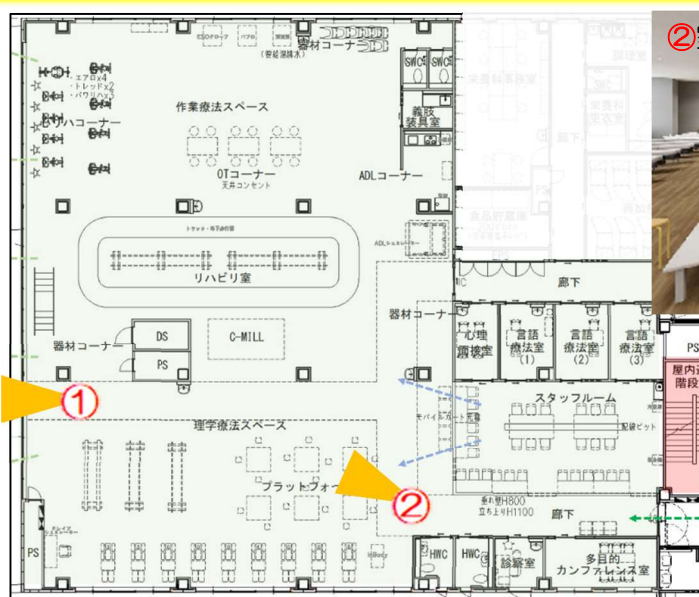
土留めをした後に、掘削をしています



支持杭を設置しています

令和 9 年 3 月
開院予定

◆◆ 新病院の設計内容を紹介します！（その5） ◆◆



②室内イメージ図



新病院の内部をご紹介します！今回は6階「リハビリテーション」室です。リハビリ室の面積は600㎡で、現病院の3倍の広さです。回復期病棟と同じ6階に設置し、入院患者さんの利便性を高めます。言語療法室を3室、心理面接室も1室、設置します。

①リハビリ室からの眺望イメージ



【裏面に続きます】

◆◆ リハビリテーション課についてご紹介します ◆◆

みなさん、こんにちは。当課では、『リハビリで住み慣れた地域を元気に！』をモットーに野洲市民の皆様のニーズに応え、市民に愛される病院作りに貢献できるよう、日々精進しています。

現在、県下でも数少ないリハビリテーション専門医のもと、理学療法士 31 名、作業療法士 14 名、言語聴覚士 4 名、公認心理師 1 名の合計 50 名で、日々の業務を行っています。老朽化した現病院ではご不便をおかけしていることも多々あるとは思いますが、VR を使用した新しい機器の導入やスタッフの増員を行うことで、患者様一人あたりの時間を十分に確保しつつ、ほとんどの病棟で 365 日提供するなど、リハビリの充実を図っています。

新病院に向けて、4 月より新しいスタッフが 10 名入職しました。これまでも部署内での技術研鑽、生涯学習、学会発表、論文の投稿など、積極的に人材育成を行ってきましたが、一層、力を入れていきたいと思っています。

市民・患者様に寄り添い、誠実さと創造性を兼ね備えたリハビリテーションを提供し、市民に愛されるリハビリテーション課をめざしてガンバリます。



----- 歴史の井戸辺 医事にまつわる野洲の歴史散策 第 4 回 -----

曲直瀬道三（1507～1594 年）とは、^{やくいんぜんそう}施薬院全宗が医学を学んだ人物である。一説では勝部氏（現・守山市が拠点）の出身で、幼少期は大光寺（現・守山市）で学んだともいわれる⁽¹⁾。相国寺（京都）や足利学校（^{ばんどう}「坂東の大学」）へ遊学し、医学を学んで医師となり、信長や秀吉、家康などの信頼を得ていった。また、養子の^{りんきく}玄翊（二代目・曲直瀬道三）は豊臣秀次の侍医となり、後に徳川家の奥医師を務めている。2 人ともに、江戸時代の医学に大きな影響を与えた人物である。そんな道三が、実は、間接的ではあるが、野洲の歴史と関わりを持っていたのである。



勝部神社（守山市）

道三の医学は、朱子学の理論により病を理解するものだったと云われている⁽²⁾。朱子学とは当時の最新の儒学である。領国を統治する上で示唆に富むものとして、戦国時代頃より普及しつつあった⁽³⁾。それだけでなく、朱子学は自然科学をも説明する学問であったことから、その影響は医学にも及んだ。ついには、医学は何のために存在するのかというような、医学の在り方をも大きく変容させていったのである。（次回につづく）



曲直瀬道三の碑
（京都市十念寺門前）

【参考文献】

1. 異説あり（服部敏良『室町安土桃山時代医学史の研究』吉川弘文館、1971 年、葉山美知子「曲直瀬道三の本姓を検証する一堀部氏あるいは勝部氏か」（『日本医学雑誌』第 62 巻第 2 号、2016 年）など）。
2. 土田健次郎『江戸の朱子学』筑摩選書、2014 年
3. 沖田行司『日本国民をつくった教育』ミネルヴァ書房、2017 年